

春の遠足 こぼれ話

校長 福岡 勤

練馬区では4つの少年自然の家(ベルデ)を保有しており、区内の小学校は2年間ですべての施設を利用することになっています。従って、本校では、5年生で岩井移動教室に行く児童は、6年生で軽井沢移動教室に行き、5年生で下田移動教室に行く児童は、6年生では武石移動教室に行くサイクルになっています。また、本校の1~4年生は、春に遠足に行く教育課程を組んでいます。

ではなぜ、遠足や移動教室に行くのでしょうか。それは、遠足や移動教室は、学習指導要領に「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むこと」とその目的や内容を示している学校行事の一つである「遠足・集団宿泊の行事」が示されているからです。

今回は、この春の遠足での小さなエピソードを基に、これらのことを考えてみたいと思います。まずは、私の歩数計から割り出すと約12kmも歩いた3年生の天覧山・多峯主山の遠足での話です。

全ての子供たちが頑張っ山に登り、新緑鮮やかな山道を歩き終え、あとは飯能から電車で帰校するだけとなり、最終のトイレ利用となりました。女子はいつものとおり長い列ができますが、姿が見えなくなってきたため、男子の方は...と点検に行きますと、二人の子供がまだ中にいます。「用が済んだら遊ばないよ。」と声を掛けると、二人ともに個室で用を足したいとのこと。でも三つの内、二つの個室の扉は開いています。「こっち、空いているよ。」と言うと、二人とも「和式ではできない。」との返答。そうこうする内に、「そろそろ出発します!」の声が...集団行動の中でのトイレの問題、今年もありました。



次は、2年生の八国山緑地公園への遠足でのことです。遠足のシーズンは、どの学校も同じような旅程を考えるため、かち合わないよう行きも帰りも指定された車両に乗ります。車内は比較的すいてるとはいえ、車内には一般の乗客の方がいらっしゃいます。行きの電車ですが、「すわりたいよ!」「すわらせて。」と小声ですが要望を口にする子もいます。そんなとき、「校長先生、あそこ座ってもいいですか?」と優先席を指さす子供が二人来ました。

「あそこは『ゆうせんせき』なので、座ってもいいけれど、お年寄りや体の不自由な人が乗ってきたら席を譲ってね。」と私が言うと二人とも「『ゆうせんせき』って?」ときょとんとしています。「ほら、シートの色が、違っていて、つり革の色がオレンジになっているでしょう。」「へ~はじめて知った!」御家庭ではクルマでのお出かけが多く、このようなことまでは教わっていないのかもしれない。

また、4年生の遠足。日和田山の男坂は岩場です。けが防止のために軍手持参としていますが、朝の集合場所ではショートパンツ姿の子がちらほらと...

お弁当のときは、子供たちの管理のため、あえて私は全体が見渡せる場所に陣取るようにしています。そのため、必然的に一人で食べることが多いのですが、「校長先生、一人ぼっちなの?ぼくたち(私たち)といっしょに食べませんか?」と、うれし・かわいいお誘いが2件ありましたことを申し添えます。